

# デザイン塾：「デザイン科学は『令和』時代の エスキースを描くか？」

平成 31年4月12日(金)、慶應義塾大学 矢上キャンパス 創想館フォーラムを会場として、「デザイン塾：デザイン科学は『令和』時代のエスキースを描くか？」が開催されました。

本活動は、日本機械学会 デザイン科学研究会、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会、日本設計工学会 デザイン科学に関する研究調査分科会、デザイン塾の共催により行われました。

本塾は、第1部では慶應義塾大学 松岡由幸教授、慶應義塾大学 加藤健郎専任講師、千葉大学 佐藤浩一郎准教授による3件の講演、第2部では首都大学東京 下村芳樹教授、京都大学 西脇眞二教授、東京大学 村上存教授による3件の講演が行われました。また第3部では「Mメソッドシステム」のデモンストレーションと、交流会が行われました。

当日はまず松岡教授による開会のご挨拶で開会し、第1部 松岡教授による講演「デザイン科学は『令和』時代のエスキースを描くか？」、加藤専任講師による講演「「デザイン科学の文脈と A G E 思考モデル・多空間デザインモデルへの誘い」、佐藤准教授による講演「多空間デザインモデルの理論と実践」が行われました。

続いて第2部では、下村教授による講演「日本企業のイノベーションを阻害する障壁とは何か？またその破壊の手段は？」、西脇教授による講演「デザイン科学における数理と最適化」、村上教授による講演「二つのHumanwareのためのDesign Science」が行われました。

第3部では、「Mメソッドシステム」のデモンストレーションが行われました。また懇親会においては、参加者同士で自由に意見を交わしました。会場では活発な議論が行われ、盛況のうちに終了いたしました。本活動においては、設計に関わる研究・教育者の方々、実務者の方々、学生含めて約70名の方にお越し頂きました。



松岡教授による講演の様子



加藤専任講師による講演の様子



佐藤准教授による講演の様子



下村教授による講演の様子



西脇教授による講演の様子



村上教授による講演の様子